

# 寅さん歩 その 17



## ドイツ散歩-1

平野 武宏

全国のウォーキング大会に参加していると、妻の友人から映画「男はつらいよ」の「寅さん」のようだと言われ、ウォーキング紀行文のペンネームを「平野寅次郎」としました。寅次郎のウォーキング人生の最終目標は「世界のウォーキング大会」を歩くことです。

映画の寅さんも第 41 作「男はつらいよ 寅次郎心の旅路」で日本の旅先で出会った心の壊れたインテリ青年に乞われて、ウィーン、アムステルダムを旅しています。

世界の二大ウォーキング大会は毎年オランダのナインメーヘンで開催の「国際フォーデーズマーチ」(2017 年第 101 回)と 2 年毎に世界各地を持ち回り開催の「IVV オリンピアード」(2017 年第 15 回)です。いずれも 4 日間(開会式は前日夕方)の大会ですが、内容が大きく異なります。

「国際フォーデーズマーチ」は年齢・性別により、30km、40km、50km を歩き、4 日間同じ距離を完歩しないと完歩メダルは授与されない健脚ウォーカー向きです。男性は若い人ほど長い距離で、女性は 30km で可。各国の軍隊・警察は訓練で団体参加し、10 kg を背負い、40 km を歩きます。

「IVV オリンピアード」は国際市民スポーツ連盟(世界 44 か国と地域が加盟)主催で 5~42km のウォーキング(42km のマラソンもあり)、300~1,000 m のスイミング、25~30km のサイクリング、大会によっては歩くスキー、ローラースケートが市民スポーツとして加えられます。どの種目を選んで、組み合わせてもよく、世界標準基準の IVV(参加回数・距離の認定証)が認定され、完歩(記念)メダルは参加者全員に授与されます。高齢になっても市民スポーツを楽しむ人々向きです。

寅次郎は「国際フォーデーズマーチ」しか知らず、2006 年の第 90 回大会に参加しましたが、高温の異常気象で死者が出て大会は 1 日で中止になってしまいました。

2007 年第 91 回大会に優先的に参加でき、その時のツアーに「IVV オリンピアード エストニア大会」が組み込まれていて、初めて体験しました。ひたすら長い距離を歩くことに飽きていた寅次郎、IVV オリンピアードの魅力の虜になり、東洋で初開催の 2009 年日本大会(河口湖+山中湖ツーデ

ーマーチ)、トルコ大会、イタリア大会に参加、2015 年中国大会は避け、2017 年ドイツ コブレンツで開催の第 15 回大会に参加しました。今回は海外旅行に精通したKさんのスケジュール・事前予約に頼り、グループ 15 名(内 FWA 会員 10 名)でドイツ散歩を楽しみました。この紀行文は寅次郎が体験したこと・感じたことを中心に書きます。何分、加齢の身、記憶違いがあればご容赦下さい。

## 【フランクフルト～ケルン】

2017 年 6 月 4 日 (日)

4 年ぶりの海外行で期待と不安の寅次郎、成田空港 11 時 25 分発で、ドイツ フランクフルト空港に 16 時 30 分到着。入国審査を済ませ、鉄道 ICE (超特急) (写真右) でケルンに向かいました。フランクフルト空港ではターミナル 2 からスカイラインに乗り、ターミナル 1 へ移動、中央駅まではエスカレーターを上ったり、下ったりして、たどり着きました。



ドイツの駅には改札がなく、駅員もいません。車掌の検札はあり、違反すると高い罰金だそうです。切符はネットや自動販売機で購入、我々は日本から指定席を予約支払い済、指定席は席の荷物棚付近に電光表示があります。ドアは自動ではなくボタンを押す手動、自転車の置き場もあり、持ち込み可です。フランクフルト中央駅からケルン中央駅までは約 1 時間でした。

ケルンはローマ時代から栄えた歴史の街。大聖堂、オーデコロン、ケルシュビール、サッカーFC ケルンがケルン人の誇りとのこと。

オーデコロンとはフランス語で「ケルンの水」という意味とのこと。ホテル(写真右)は駅構内にあり、右側が駅入口です。大聖堂は目の前にありました。今までの旅は旅行社のツアーなので、今回、初めてカードで宿泊費の支払。EV にはドアの開閉ボタンはなく、ひたすら閉まるのを待ちます。1 階が E ボタン、2 階が 1 ボタン。

空がやっと暗くなった 22 時就寝。7 時間時差の日本はもう 5 日の朝 5 時です。長い一日でした。



6 月 5 日 (月)

教会の鐘が鳴り響く中、朝のお散歩へ。朝夕の気温差があり、ひんやりした感じです。駅前で南アフリカから来た旅行者に声をかけられ、「自分は 1 週間のホリデー」に「2 週間だと答える」と「よく休みがとれたね」と返ってきました。

「毎日がホリデーだ」とは応えられなかった寅次郎でした。朝の散歩のおかげで、街歩きウォーキングの先導が出来ました。  
まずは、「大聖堂」へ。高さ 157m、ゴシック様式（12 世紀後半から花開いたフランスを発祥とする建築様式）としては世界最大の建築物で世界遺産です。1248 年に着工、資金難の中断があり、完成は 1880 年。聖霊臨降祭のミサが行われていました。外壁面の彫刻や内部のステンドグラスは一つ一つ、見ごたえがあります。

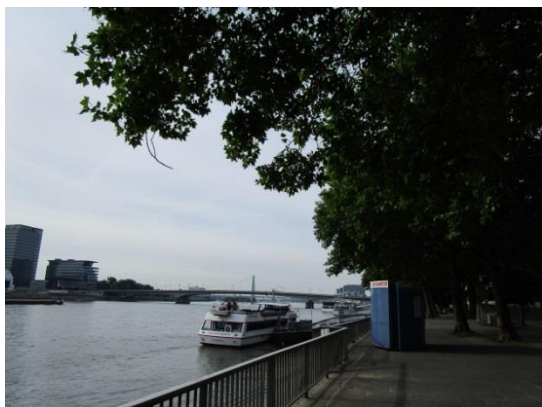


写真上は駅前広場から見た大聖堂、建物右側が正面入口（写真右）です。

写真下は裏側のライン川から見た大聖堂。



旧市街からライン川沿いをチョコレート博物館まで歩きました。どこも絵になる風景です。ライン川（写真下左）と川沿いに立ち並ぶホテル（写真下右）です。







チョコレート博物館(写真下左)で一時解散、チョコレート博物館組、美術館組、歴史博物館組に分かれました。寅次郎は大聖堂裏のローマ・ゲルマン博物館(写真下右)(6.5€+荷物預0.5€)に戻り、歴史を学びました。(€=EU ユーロ、現在1€=130円程度)



2000年前の昔、ケルンがローマの植民地だったことを如実に物語る、古代遺跡から発掘された美術品などが展示。感嘆の声に女性係員から「シー!」、「ソーリー」と謝る寅次郎でした。巨大なギリシャ神話の酒神バックスのモザイクは見事。(館内は撮影禁止)この博物館自体、遺跡の上にあり、遺跡を保護しているとのこと。

夕食は全員で1511年創業ケルシュの名店でケルシュビールとドイツ家庭料理で明日からの英気を養いました。肉(アイスパイン)の右は長い焼きソーセージの付け合せの煮キャベツで、4人で食べ、満腹でした。(ビール込一人15€)



## [ケルン～コブレンツ]

6月6日(火)

10時18分発IC(特急)でケルン中央駅を出発、コブレンツ中央駅に向かいました。電光板で発車ホームを確認、ホームにある列車編成表で乗る車両を確認、車両は長く、出入口が2か所なので、二手に分かれて乗り込みました。効率的な乗り降りと荷物置き場を確保するためです。

これが思わぬハプニングの原因になるとはつゆ知らず・・・

約1時間の旅です。そろそろコブレンツ駅が近くなると荷物を持ち、出口に向かいました。止まった駅の名前を見ると、コブレンツではありません。駅も大きな街の様子ではなく、寅次郎たちは降りないでいると、なんと前方の出口にいた2/3のメンバーが降りてしまい、列車は発車！

後で聞くと駅名が見えなかったとか。「降りないで馬鹿だなー」が、すぐに周囲を見渡し「馬鹿なのは自分達だ!」と言ったとか。次に停車したのは大きな駅のコブレンツ中央駅(写真下左)でした。電話連絡を取り、次の各駅停車で来るメンバーを待ち、無事、合流出来ました。

写真下右の左側の建物は5日間お世話になる駅前のGホテルです。



ホテルから歩いて約20分の大会会場に行き、参加受付を行い、大会プログラム・参加パスポートと参加記念品(写真下左右)をいただきました。







写真左は参加パスポートで、4日間の参加記録が押印されます。今までは無料で付いていたビニールのケースは2.5€で売られていました。後で気付いたのですが、ケースのリボン上の表示が「KOBLNZ」と「E」

が抜けていました。国際大会でもこんなミスがあるのですね・・・

ドイツに来て驚いたのは喫煙対応です。建物内は禁煙ですが、外はどこでも可で、受動喫煙などおかまいなしです。でも吸い殻が落ちていないのは道路に多くあるゴミ箱の上が灰皿になっているからのようです。ホテルも入口の外に2つの灰皿がありました。入口が施錠時でもカードキーで入れます。

男子トイレの高い便器は10年前に経験しましたが、今度はホテルで座る方があまりに低いのに驚いた寅次郎でした。

なお、今回の訪問地フランクフルト、ケルン、コブレンツの位置を表す地図です。細長いドイツの南半分に位置します。リューデスハイムはこの後の訪問地です。



夕方からの開会式の模様は次回をお楽しみに。

次回は ドイツ散歩-2 です。

平野 寅次郎 拝